

はつゆめ

小川未明

青空文庫

正しょうちゃんはまだ ふとい バットを ふれなかつたので、き
 よねんは おうえんだんちのように なりました。正しょうちゃんは は
 やく せんしゆに なりたかつたのです。

きようは ことしの はつしあいでした。正しょうちゃんは ほけつ
 で きて いると、あいての 西にしこう校の せんしゆたちは、ほん
 とうに よく うちました。いくら こちらが、がんばっても、
 なかなか おいつきません。この まま すすめば 二てんの
 さで、こちらの まけと なります。九かいの うら、やつと
 ツーダウン
 一 死 まんるいに こぎつけました。ここで ヒットが 一つ
 できれば、どうてんと なるのです。

「だれを だそうか。」

と、東ひがしこう校のせんしゆたちは そうだんを しました。

「正しょうちゃん、きみは あてると、いい たまを だすから、やつて ござらん。」

と いいました。

正しょうちゃんは この ときと おもいました。ふとい バットをもつて できました。みて いる ものが、みんな あせを に ぎりました。

「正しょうちゃん、しつかり おやりなさい。」

と いったのは、とめこ子さんです。

正しょうちゃんは、かおを まつかに して、力ちからいっぱい バットを

ふりました。カンと音^{おと}がすると、すごい あたりでした。

「ヒット、ヒット。」

と、いう こえが おこりました。つづいて、

「ホームラン、ホームラン。」

と、いう こえが おこりました。たまは ぐんぐん のびて、

はらっぱの くさむらの 中^{なか}に おちたのです。

「正^{しょう}ちゃん、えらいなあ。」

東^{ひがしこう}校は、ついに 一てん 勝ちこして、西^{にしこう}校を やぶり

ました。

「えらいね、正^{しょう}ちゃん。」

と、とめ子^こさんが よろこんで くれました。

「正ちゃん、きみは　こんどから、三るいしゆに　なりたまえ。」
と、きまりました。みんなは　きょうの　しゆくんしゃ　正ちゃんを　いわつて、手を　パチパチと　たたきました。

「正ちゃん、たこをかいに　いっしよに　いかない。」

と、武ちゃんが　いっしたので、町へ　いっしよに　いくと、初荷の　車が　やつて　きました。こめだわらの　上に、だいこくさまを　かぎつて、青や　赤の　ふうせんだまが　いくつも　ついて　いました。とおりすぎる　ときに、車の　上に　たつて　いる　人が、

「ばんざい。」

と、手を　あげました。

しょう
正ちゃんも 武ちゃんも、

「ばんざい。」

と いった、手をあげました。

ばんに、武ちゃんのおうちへ、かるたを とりにお
やくそくを して わかれました。

くると、とめ子さんが 目に なみだを ためて いました。

「どう したんだい。」

と、正ちゃんは ききました。

「おはじき して、みんな とられて しまったの。」

と、とめ子さんが いいました。

「だれに とられたの。」

と、^{しやう}正ちゃんは ききました。

「しげ子^こさんや、あつちの しらない 子^こに。」

「どこに いる。」

「おみやの まえに あそんで いるよ。」

と、とめ子^こさんが いいました。

「ぼくが、かたきを うつて あげる。」

「だめよ、^{しやう}正ちゃん、とても あつちの 子^こは つよいんだから

」。

と、とめ子^こさんが いいました。

^{しやう}正ちゃんは、おうちへ かけて 行って、じぶんの おはじきの ふくろを もって ききました。

おみやの まえへ いくと、お正しょうがつ月なもので、みんな きれいな きものを きて いました。しげ子こさんは、おしろいをぬって、赤あかい げたを はいて いました。あっちの しらない 子は、白しろい 毛けの えりまきを して いました。ほかにも 男おとこの 子こや 女おんなの 子こが おおぜい いました。

「おはじき しようか。」

と、正しょうちゃんが いうと、しげ子こさんが、

「おほほ。」

と わらいました。

「ええ、しましうよ。」

と、しらない 女おんなの 子こが いました。

「正ちゃん、とられても おこりっこ なしよ。」

と、しげ子さんが いいました。

「いいよ。」

「とめ子さんみたいに、ないて しまつては いやよ。」

「だれが、なくもんか。」

「おほほ。」

「なにが おかしいんだい。」

「おほほ。」

と、あつちの 子も わらいました。

正ちゃんは、あまいぬ こまいぬの 石の上で、おはじきを
しました。おばあさんに ぬつて もらつた、おはじきの は

いった ふくろを こまいぬの くびに かけて、ふとい 人さ^{ひと}

しゆびを うごかしました。

「正^{しょう}ちゃん、小^こゆびを おつかいなさい。」

と、とめ子^こさんが いいました。

「ぼく、小^こゆびが つかえないのだよ。」

「おほほ。」

と、みんなが わらいました。

「いちじゆく、にんじん、ごぼうで、しいたけ、ほい。」

と、正^{しょう}ちゃんは いいながら、パチパチと あてました。

しげ子^こさんや しらない 子^こは だんだん まけて、正^{しょう}ちゃん

に みんな おはじきを とられて しまいました。

「ああ、くやしい。」

「また あとで。」

しげ子さんと しらない 子は、あちらへ にげて いきました。
た。

「とめ子さん、ぼく、かったのを みんな あげるよ。」

とめ子さんは よろこびました。

「どうして 正ちゃんしょうちゃんは こんなに つよく なったの。」

と、とめ子さんが ききました。

「ぼく、こころなかの 中で、かみさまを おがんだのだ。」

「わたしも おがむわ。」

と、とめ子さんは 手を あわせて おがみました。そうして、

あまいぬ、こまいぬにも あたまを さげました。

この とき、ドンコ、ドンコと あさの おみやの たいこの
音が ^{おと}して、^{しょう}正ちゃんは ゆめから さめたので あります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 16」講談社

1978（昭和53）年2月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：Juki

2012年7月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 ([http://www.aozora.gr.jp/](http://www.w.aozora.gr.jp/)) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

はつゆめ

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>